

平成 29 年度 第 3 回 瀬戸内市地域公共交通会議 会議録要旨

開催日時：平成 30 年 3 月 16 日（金）14 時 15 分～16 時 10 分

開催場所：瀬戸内市役所 2 階 大会議室

出席委員：高原会長（瀬戸内市副市長）

大東副会長（岡山商科大学経営学部）

原 委員（両備ホールディングス㈱）

佐藤委員（東備バス㈱）

坂本委員【代理：末藤氏】（㈱ネイチャーワールド自動車）

元浜委員（瀬戸内市商工会）

石田委員（瀬戸内市観光協会）

成木委員（瀬戸内市 PTA 連合会）

角房委員（生活交通網をつくる会）

加藤委員【代理：森下氏】（西日本旅客鉄道㈱岡山支社）

三枝委員（一般社団法人瀬戸内市緑の村公社）

藤井委員（中国運輸局岡山運輸支局）

鷺田委員（岡山県県民生活部県民生活交通課）

杉田委員（備前市市民生活部公共交通課）

武田委員（瀬戸内警察署）

小橋委員（備前県民局建設部管理課）

出席委員 16 名

随員 1 名 出口主席運輸企画専門官（中国運輸局岡山運輸支局）

委任状提出委員 5 名

事務局：総合政策部 石原（部長）

企画振興課 岡崎（課長）、青砥（主幹）、永井（主査）

1 開会

2 会長あいさつ

※本日の協議事項は 4 項目となっており会議時間は 1 時間半を予定している。

※間もなく4月を迎えようとしている。公共交通を利用される方の彩りも変わってくる時期である。新社会人や新入生には公共交通は重要な移動手段である。

※市営バスは運行時間帯が通勤通学には利用できない設定となっている。このような部分についても議論を深めていきたい。

3 議事

(1) 両備グループの路線廃止届提出に係る対応について

～事務局から資料1について説明～

会 長： 原委員から補足説明をお願いします。

～両備ホールディングス原委員から補足説明～

会 長： ご意見、質問はないか。

委 員： 状況はわかったが、両備グループの手法に疑問が残る部分もある。岡山運輸支局の方に確認するが、めぐりん益野線は認可されたということでよいか。認可されたものを両備グループが、認可を取り消さない場合は、周辺の赤字路線を廃止する、という趣旨の発言をすることはいかなものかと考える。両備から提供のあった資料にある道路運送法の一部についても、都合のよいところだけを引用しているように思う。運輸局も申請内容に目を通し、要件を満たしていたから認可したはず。これでまた認可を取り消すことになると、両備グループの言い分を一方的に聞き入れたと我々は捉えるということを運輸局もよく頭に入れておいて欲しい。個人的には一度決まったものに対して、交通弱者を人質に取って駆け引きするのは許せない。また、両備さんの言い分だけ聞いているが、めぐりん側の言い分も出してほしい。協議事項(1)については、めぐりん側にも出席していただかないと議論できない。補助金は両備さんに対して市から出ているが、市内には他のバス会社もある。例えば、現在の補助金以下でできる事業者があるかもしれない。入札のような方法で安価な事業者が運行すればよい。

会 長： この協議事項については、市の対応について、事実関係を報告するのみと捉えていただきたい。両備グループと相手方のことを議論する場ではないことをご理解いただきたい。あくまでも、今回両備グループが提出された路線の廃止届の事案について時系列で市の対応を説明し、補足説明として両備に経緯と背景を説明していただいたということをご理解いただきたい。

委 員： そうであれば、両備グループが廃止届を取り下げた事実がわかった時点で、この会議で議題にするべきではないと考える。

会 長： 委員ご発言のとおり、社会的な問題も大きいので、本日の会議の議題に追加した。

ご理解いただきたい。

委員：路線廃止届の撤回について、観光協会会長の立場として、安堵したところである。私自身が牛窓在住であり、当事者であった。牛窓は鉄道がないので路線バスは唯一無二の公共交通機関である。路線の維持は大変喜んでいる。両備グループの考えを理解できる一方で、競争社会の中では新規参入もある程度予測できる。しかしながら、人口の多い都市部と過疎地とで同じ条件のもと、競争参入を議論することはいかなものかと思う。地元の立場で申し上げますと、唯一の公共交通機関である路線バスが廃止になるということは、地域の活力が失われ、更には地価も左右されることになる。人口減少社会の中で、これを食い止める活動を行政や民間がしているが、公共交通機関がないということは、活動が非常にやりにくくなる。4市が協議会を立ち上げるそうなので、その場で補助金の話しは出てくると思う。金額はともかくとして、路線を維持することについては行政も両備さんもお互いに住民ファースト、利用者の立場で考えてほしい。

(2) 市営バス事業について

～事務局から資料2（1～13 ページ）利用状況について説明～

会長：ご意見があればご発言ください。利用者が少ないではないかというご意見があると思うがこれは後ほど議論する予定である。

～特になし～

～事務局から資料2（14～21 ページ）沿線住民アンケート調査結果、利用促進の実施状況について説明～

会長：意見はどうか。3線路ともに特色がある。今後、誰をターゲットにすべきか、どのように改良すべきかなどの課題も見えたようである。

～特になし～

～事務局から参考資料1について説明～

会長：参考資料1の2ページで、西庄の停留所移設の説明があったが、横尾等の周辺停留所でも乗降が少ない状況か。

事務局：この付近は全般的に利用が少ない状況である。

会長：乗る方はいらっしゃるのだろうが、利用が少ない。バス停の位置を変えることで少しでも乗りやすくなるのではないかとということで提案している。3ページの三蔵農林前についてはご説明の通り。出については集落により近い所を通るル

ートに変更していく形。4ページの円張は集落へ入っていくということで、先ほどの出と同じ考え方。5ページの美和線についても、南側の集落の中に入るルート変更。一方で、このルート変更が実現すると、現停留所の島新田は通らなくなる。橋のあたりへ停留所を移設することも可能性として考えられる。付近の停留所も含めて、4カ月間で利用者数実績は0であり、利用促進を図るべきと考えている。

これらの事務局案についてご意見をお願いします。

委員：美和線の西村西から和田久保について、ここは上の道を通っている。下の道の方が上まであがるのに150メートル程度歩いて行く必要があり、辛いという話を聞いた。上と下の両方を走るのは無理だろうが検討してもらえないか。

会長：今は旧県道を通っている。検討させていただくが、変更は難しいと考える。

委員：利用促進の目的で、より集落の近くを通るコース変更を検討するということだと思うが、もとのコースがあえて集落のところまでいかなかった理由はあったのか。アンケートの中で利用しない理由に目的地まで時間がかかるというのがある。コースが変わるといことは、このような意見の少ない西脇一邑久駅線などでは影響が少ないとは思いますが、一応こういった部分もある程度検証し、想定はされているのか。集落のそばを走ることによって地域の方は本当に乗っていただけのような感触なのか。ルート変更しても実際には乗らないというのであれば、目的地までの時間がただ延びてしまうだけということになる。

事務局：現在の路線を設定する際、また、今回の見直しルートについて、地元の方と調整をしている。委員ご指摘の通り、アンケート調査では、全体の時間が長くなるバスは利用できないという意見も多数あった。このあたりの兼ね合いも考慮しつつ、路線全体が効率的な運行になるようなバランスを考える必要がある。今回お示した事務局案についても、本当に必要か、迂回することで何人乗ってもらえるか、今一度関係各自治会へ相談し、調整を図る。

会長：スケジュールにも自治会との調整は書いている。あくまでも利用促進と利便性とのバランスをとる。まずは乗っていただきやすい路線、というのが大きなポイントだと考えている。当初の運行開始時に、集落の近くを通る検討はなかったのか、ということも言えるが、まずは走らせてみようということで、路線全体の時間やJR駅での待機時間をかなり加味しながら考えたのが当初の案であった。運行を開始してみると、地元から様々な意見も出てきた。今回はそれらを踏まえた事務局案である。

これは6月の公共交通会議で決定するのか。

事務局：路線が変わる場合は県への変更申請が必要となり、申請は交通会議で合意していることが前提となる。6月の交通会議で合意していただくということを想定している。

会長：スケジュールをもう少し早くすることはできるのか。

事務局：4～5月あたりのスケジュールになってくと思う。地元調整、警察の指導による停留所の確認、ダイヤ調整、運行事業者が実際安全に運行可能であるかの確認などが必要であるが、若干の期間短縮であれば、可能性はあると考える。

会長：地元や警察との法的な協議は重要であるが、若干のスピード感も必要である。改善は早目にするべきである。予算は関係するのか。

事務局：予算は関係しない。

会長：できれば5月中に交通会議を開催してもよいのではないかと考えている。できるだけ早く改善し、実際に運行することが目的である。

(3) タクシー活用事業について

～事務局から資料3について説明～

会長：ご意見、ご質問があればご発言ください。

委員：41名の申請に対して、タクシー券の配布枚数が1,164枚となっている。41で割り切れない枚数であるが、1人当たりの配布数は決まっているのか。

事務局：配布枚数は1月当たり500円券が6枚で計算する。年度末分までをまとめて交付する方法であるため、例えば、運用開始の11月に申請した方は5ヵ月分を交付したが、12月や1月に申請した方は年度末までの残りの月数の枚数となったことから端数が出ている。

会長：事務局としては実証的に導入した5ヶ月間のタクシー活用事業の実績を見てどう感じているか。

事務局：正直に申し上げると、導入前は適正な利用という面で不安があった。本人以外の利用等が発生する懸念があった。しかしながら、記録からみる限り、通院や買い物など日常生活の中で概ね適正に利用されているとの感想を持っている。

会長：実際に手探りの状態で始めた事業である。2月時点で利用率52.7%の実績は、まづまづという感触を持っている。必要としている人に利用してもらうことが目的であり、いわゆる不正運用が見受けられないことはありがたい。

委員：通常のタクシーチケットは3月で期限が切れる。この制度も同様であるか。

事務局：委員のご発言のとおりで、制度が年度ごとのため、3月で使用期限が切れる。当初予算の可決が前提だが、4月から新しく申請を受け付けて交付を始める。タク

シー利用券の色は、現在の水色からピンク色に変える予定。

(4) 次年度の地域公共交通網形成計画の推進について

～事務局から資料4について説明～

会 長：「地域内交通の導入」の項目で、未着手の不便地域へ導入する地域内交通の種類を検討するに当たり、デマンド交通を含むという趣旨の説明があったが、これはあり得るのか。あくまでも定時定路線で運行する市営バスの新路線を導入し、そのルート等を検討するものと認識している。デマンド交通も選択肢に加えるとすると、柱がくずれるのではないか。

事務局：検討未着手のエリアについて、網形成計画では、定時定路線の市営バスやデマンド交通などの手段の中から、住民の方と協議の上決めるという計画にはなっている。

会 長：交通不便地域の解消が主な目的である。バスが効率的に運行できない地域については、タクシー活用制度を導入すると今まで説明してきた。ここにきて新路線についてデマンドも検討すると言ってしまうのはどうだろうか。既存の3路線については定時定路線と決まった。どちらかという行政側の意向が強かった。今後、また新たにデマンドを含めて検討するとなると、逆に今、定時定路線の市営バスが走っている地域の人も、デマンド運行にしてほしいということになったり、さらに大きく変わる可能性もある。瀬戸内市全体としてどういう路線形態がいいのか決めておく必要がある。2段階目の新路線の議論でデマンド運行の検討をするというのは少し違うのではないか。

委 員：デマンドだと使いにくいだろう、利用者が少ないであろうという議論があり、定時定路線になったはず。

会 長：路線形態はすべて定時定路線でよいと考えている。フリー乗降にしてほしいという意見もある。それもA路線はいいけどB路線はだめ、という話にはならない。それと同じ考え方をすれば、デマンドと定時定路線は混在してはいけないと思う。

委 員：一年半、牛窓でデマンドの実証運行をした後の会議なので、また戻してしまえばあれは何だったのかということになる。

会 長：委員側の意見は、デマンドは今後も選択肢に含まないということである。

委 員：実際に外に出かけられない人がどうすればいいのか、ということから交通について考え始めもう何年にもなる。今出ているデマンドを復活するという話は私も初めて聞いた。そのことと今から話すことは直接関係ないが、定時定路線にする前にデマンドがあった。それは牛窓だけであったが、牛窓からデマンドを全市へ

広げていけばよいのではないかと思っていた。実は今でも思っている。頑張っておられるとは思いますが、3路線作って山の中を走ってもそれがすごく活用されるということは難しい。集落付近に入っていくほうがよいとは思いますが、入れば入るほど時間と経費がかかる。定時なので、乗る人がいてもいなくても走るということもあり、経済的にもロスがあるだろうと思う。結局、今のバスも随分苦戦してがんばってくれていると思うが、牛窓でデマンドをやめるとき、これからは全市的な交通を考えていくという話になった。本当に残念だったが、デマンドがよい交通だという意見を振り切ってやめた。結果的に、鹿忍地区の交通は元に戻ってしまった。交通は路線バスだけに戻ってしまい、鹿忍の真ん中は何もなくなった。こういうことはありなのか、何のために一生懸命やってきたのか。結局それはバス停から400m以上離れていなければそこは不便地域ではないと市が決めたからであり、それを決めてしまったら交通は作れない。その辺も疑問に思っている。これは今出ているデマンドを復活するという話とは関係ないことはお伝えしておくが、いろいろ進められているのを今振り返ってみると私たちは何をやってきたのかと思う。

会 長 : デマンドの議論についてはおおむね委員の意見はそういうことです。

鹿忍の中心部をどうするかは、西脇-邑久駅線の問題のひとつと考えており、30年度に考えるべきだと思っている。西脇から鹿忍方面へルート変更する意見もあった。牛窓と鹿忍を結ぶ横路線を考えるべきではないかとも思う。できる・できない、考えない・考えるというところもあるが、利便性向上はひとつのテーマとしては持っておいて欲しい。

派手なバスにしようというのはどこで考えるか。

事務局 : 予算としては計上できていない。アンケート調査でもバスが目立たない、もう少し目立つようにしてほしいという意見もあった。

委 員 : 派手にする必要はない。アンケートでほとんどの人が知っているとの結果が出ている。

委 員 : アイキャッチャーとして少し工夫はほしい。

事務局 : 親しみを持っていただけるようなカラーリングにすることで、乗っていただく方も増える可能性はあると思う。

委 員 : ステッカーで顔のようにするとか、猫バスみたいな子供も親しみが持てるものが必要。以前は牛でモーモーバスだった。

事務局 : 派手というよりは親しみをもてるもの。具体的に検討する。

会 長 : 主な事業の中に入れていただきたい。

- 委員：移動が困難な地域の方が対象となっている。基本的に高齢者、車を運転できない方、免許を返納された方が対象であるが、将来的に学生が利用できる時間帯や観光客、子供が土日に利用できる運用の仕方も考えているのか。
- 会長：高校通学用時刻表に関しては1月、2月、3月の検討では間に合わない。提案いただいたように高校生が乗れるような便を作る検討をもう少し早めにする必要がある。ここの時刻表とはJRの時刻表か。
- 事務局：東備バス、JRなどの時刻表で通学に使える時間帯のダイヤや路線を載せたマップ。市営バスは直接的には関係ない。このスケジュール案（資料4）は市営バスだけのスケジュールではない。公共交通施策全般のスケジュールとしてお示ししている。ここで示している高校生通学用時刻表は、路線バスやJR赤穂線を使って高校へ通学しようというアナウンスを、主に中学卒業前の生徒を対象に実施するものである。
- 会長：次の交通会議では高校通学用時刻表については、もう少し練ったほうがよいと思う。今の説明ではただ公共交通への乗り継ぎだけ。
今焦点となっているのは、通学に市営バスが利用できないということ。逆に市民からは市営バスも使えるようにしてはどうか、という意見がある。そういうことも検討しないと既存の路線の時刻表を作っただけとなり無駄になる。
- 事務局：市営バスも通学や通勤に使える時間帯に走らせてほしいという意見が非常に多かった。特に牛窓線の本庄地区では、小学生は東備バスで邑久小学校へ通っているが、その停留所までも遠い。その時間帯にスクールバスへ乗り継ぐための市営バスを走らせてくれば、親の送迎の負担が減り非常にありがたいという意見があった。そういう時間帯の運行も将来的には検討していく必要があると考えている。
- 会長：そこがポイントであり、どこに焦点を当てるかである。確かに公共交通会議はJRさんや東備バスさんのことも含めて検討すればよいが、今コアとなっているのは市営バスである。だから市営バスで通学をという要望があれば議論すべき。将来的とかではなく、結論づけていかないと次に進めない。議論の中に入れていただきたい。
- 委員：高校通学用時刻表について、市外に通学される方も含めているだろうが、できれば邑久高校通学用のみにして欲しい。他の協議体では、地元の邑久高校を応援するための協議を行っている。地元に通う高校生を応援したい。
- 会長：居住、進学、学びの自由がある。あくまでも公共交通の会議であり、公共交通でどのような利便性を追求していくかがポイント。それを含めて高校通学用時刻

表については議論していければよいと思う。

本日の議事については以上である。事務局、委員の皆様からその他ご意見はあるか。

～特になし～

会 長：それでは以上で議事の方は締めさせていただく。事務局へお返しする。

4 その他

事務局：それでは閉会とさせていただく。

閉会のご挨拶を大東副会長にお願いする。

5 閉会

副会長：本日は長い時間ありがとうございました。また事務局側が市営バスの乗降客数、バス停の位置やタクシーの利用状況など、細かいデータを示していただき、バス停の位置の見直しなど具体的なことをきちんと議論することができて非常に良かったと思っている。感謝致します。情報が不足すると意思決定するときにはわからないままやってしまうことになるので、できるだけ今回のように詳細なデータをいただいて、それからいくつかの代替案を設計し、具体的に一つに絞り込むのが一番望ましいかと思う。今回は事前によく考えられた案を出していただいたので、スムーズに行えたかと思う。今後とも皆さんとより良い公共交通を考えていきたいと思う。本日はありがとうございました。